

平成27年度(平成28年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[3月18日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

- 供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- 播種期：10月20日
- 播種量：0.9kg/a（ドリル播き，条間25cm）
- 施肥：尿素磷加安777号
(N：0.8kg/a, P₂O₅：0.8kg/a, K₂O：0.8kg/a)
- 土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a

- 排水対策：明渠，暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ほ場条件：沖積埴壤土 転換初年目（前作水稻）

2. 気象概況[2月中旬～3月中旬]（表1，図1参考）

- 平均気温は，期間を通じて平年を上回って経過した。2月下旬，3月上～下旬は平年差+2℃以上とかなり高かった。
- 降水量は，2月20日に前線を伴った低気圧の影響で大雨となったが，他の期間は平年並みから少なく，3月中旬はかなり少なかった。
- 日照時間は，3月上旬が少なかったものの他の期間は平年並みから多かった。

表1 気象経過(2/11～3/20)古川アメダス

	平均気温 (°C)		積算降水量 (mm)		積算日照時間 (hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
2月中旬	2.7	2.2	18.5	112%	50.4	100%
2月下旬	2.0	0.6	6.0	38%	47.6	103%
3月上旬	4.1	2.0	5.0	27%	39.5	75%
3月中旬	5.7	2.2	1.5	7%	61.9	109%

注) 平年差(比)はアメダス平年値との比較

3. 生育概況

1) 3月18日現在の生育状況（表2）

- 草丈は平年よりかなり長い。
- 葉数はミノリムギで平年より2葉程度早く，他は1.2～1.4葉進展している。
- 茎数は大麦では平年並であるが，小麦では並から多くなっている。
- 2月中旬以降の，高温，多照傾向により生育は平年より進んだまま経過している。
- 現時点での障害等は特に認められない。

2) 幼穂分化状況（表3）

- 大麦の幼穂長は3mmを越え，平年より1mm程度長い。
- 小麦の幼穂長は早生のあおばの恋で3.9mm，主稈長は34mmで，既に茎立期を過ぎて早い生育となっている。その他でも1.6mmを越え平年より0.6～0.7mm程度長くなっている。
- 麦類生育ステージ予測シートによる予測では，各品種の出穂期は平年を7～8日早まるので，追肥等今後の肥培管理に留意すること。

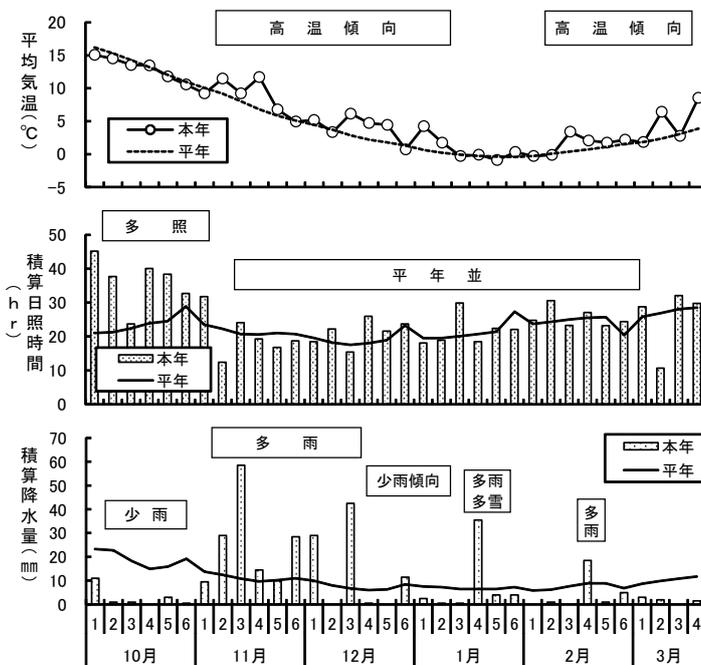


図1 半旬別気象経過（古川アメダス）

表2 古川農試ほ場の生育状況(3月18日現在)

品種	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
シュンライ	15.7	116	133	1079	103	99	8.1	0.7	1.3
ミノリムギ	16.0	117	130	1043	103	94	9.2	1.9	2.1
あおばの恋	21.9	119	153	844	88	98	7.5	0.7	1.2
シラネコムギ	16.7	103	130	1145	106	107	8.7	1.0	1.4
ゆきちから	13.4	98	116	1292	100	109	8.3	1.0	1.3

表3 古川農試ほ場の幼穂分化状況(3月18日現在)

品種	幼穂長			幼穂分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)		主稈長 (mm)	茎立期 (月/日)		出穂期 (月/日)	
	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年	平年		本年	平年	予測値	平年値
	シュンライ	3.66	0.86		1.26	IX後～X		1/27	2/3	12.5	—
ミノリムギ	3.05	0.79	1.09	IX中～IX後	2/4	2/15	7.7	—	4/6	4/29	5/6
あおばの恋	3.90	1.40	1.94	IX後～X	12/26	2/22	34.3	3/7	3/30	4/29	5/7
シラネコムギ	1.83	0.41	0.69	IX中	3/6	3/16	6.0	—	4/12	5/3	5/11
ゆきちから	1.61	0.37	0.58	IX中	3/8	3/21	2.8	—	4/16	5/5	5/12

※出穂期の予測は、古川農試麦類生育ステージ予測シート(Ver 3. 0)によるもの。

- 注1) 平年比(差)は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値との比較。
 2) 幼穂形成始期の平年値は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値。
 3) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。
 4) 茎立期: 主稈長2cmに達した日。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため、省略した。
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分される。

平成27年度(平成28年産)麦類生育調査ほ生育状況[3月18日調査結果]

表4 麦類生育調査ほ耕種概要

担当普及 センター	品種名	実施場所	畑転換 年数	排水対策 (明渠、暗渠等)	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	播種様式	条間 (cm)
大河原	シュンライ	大河原町	17	暗渠	11月1日	1.0	ドリル播き	30
	ミノリムギ	大河原町	17	暗渠	11月5日	1.0	ドリル播き	30
仙台	シュンライ	大和町	14	明渠、暗渠	10月19日	1.0	ドリル播き	30.9
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	2	暗渠、補助暗渠	10月16日	1.0	ドリル播き	15.1
美里	シラネコムギ	鹿島台	2	明渠、暗渠	10月22日	1.2	ドリル播き	22
	ゆきちから	涌谷	1	暗渠	10月29日	1.1～1.2	ドリル播き	24
登米	あおばの恋	登米市	20	暗渠	11月22日	1.4	ドリル播き	20※
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	暗渠、弾丸暗渠、明渠予定	10月11日	1.0	ドリル播き	30
	ミノリムギ	石巻市桃生町	1	暗渠、弾丸暗渠、明渠予定	10月14日	1.0	ドリル播き	30
	シラネコムギ	石巻市桃生町	確認中	なし	10月9日	0.9	ドリル播き	22.5

※: 1月5日調査

表5 麦類生育調査ほ生育状況(3月18日現在)

担当普及 センター	品種名	実施場所	播種期 (月/日)	出芽 良否	草丈			茎数			幼穂長 (mm)
					本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	
大河原	シュンライ	大河原町	11/1	良	14.7	129	146	623	77	96	3.9
	ミノリムギ	大河原町	11/5	良	18.2	230	201	643	175	139	3.4
仙台	シュンライ	大和町	10/19	良	15.4	197	-	950	494	-	3.3
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	10/16	良	19.6	218	174	1,574	212	230	1.9
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10/22	良	15.9	115	162	1,464	155	214	1.1
	ゆきちから	涌谷町	10/29	良	11.5	110	127	1,011	194	237	0.9
登米	あおばの恋	登米市豊里町	11/22	良	12.1	92	130	411	109	101	0.8
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/11	良	17.7	121	151	697	124	98	4.4
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/14	やや良	16.3	95	143	758	161	123	2.6
	シラネコムギ	石巻市桃生町	10/9	良	15.7	144	158	965	108	68	1.1

注1) 出芽良否は達観で判断(良, 中, 不良の3段階を基本とする)。

2) 平年比は過去5か年の平均値との比較。

3) 仙台「シュンライ」は平成25年度から実施場所が変更となったため、平年値はない。

担当普及センターのコメント

1) 大河原

・播種以降、高温傾向が続いていることから、生育は順調に進んでおり、草丈、茎数は平年並み以上の生育である。葉の黄化程度も低い。幼穂長は3mmを超え、平年より生育ステージは早く進んでおり、幼穂形成期に達している。病害の発生は見られず、広葉雑草が発生し始めている。

2) 仙台

・茎立ち期は3月10日で、平年と比べ20日程度早い。
 ・2月10日調査時は白鳥による食害が目立ったが、その後晴天、高温傾向で推移したことから生育は回復し、平年比200%の茎数を確保している。

3) 大崎

・暖冬傾向のため生育は旺盛。茎数は平年の2.2倍、草丈は1.7倍、幼穂長は平年比+1.6mmであり、まもなく茎立期となる。麦踏み等による損傷がやや見られる。雑草の発生はほとんどない。

4) 美里

・シラネコムギ・ゆきちから共に生育は旺盛。シラネコムギでは、12月調査時にみられた白鳥による食害の影響はなく、平年より分けつが多くなっている。

5) 登米

・草丈・茎数とも平年をやや上回っている。雑草・病害虫の発生は見られない。
 ・生育揃いはよいが、砕土が細かくほ場が乾燥していたため、踏圧時のタイヤ跡に麦が沈んでいる。

6) 石巻

・幼穂形成期追肥の実施や新葉展開が進んだことから、大麦の黄化は解消傾向しつつある。また、幼穂長は平年より長く、シラネコムギも既に幼穂形成始期に達している。